

学位論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 号		
所属	保健学専攻 医療生命科学分野 医療生命科学領域	氏名	浦 みどり
学位論文題目	Relationship between sleep-disordered breathing and sleeping position at the 37th week of pregnancy : an observational cross-sectional study (妊娠37週における睡眠呼吸障害と睡眠時姿勢との関係：観察横断研究)		
論文審査担当者	主査 金井 誠 副査 市川 元基, 藤本 圭作		
(学位論文審査の結果の要旨)			
<p>本論文は、妊娠中の女性は睡眠呼吸障害が増加し、特に肥満は閉塞性睡眠時無呼吸症候群のみならず、妊娠高血圧症候群や妊娠糖尿病などの妊娠合併症のリスク因子であることを背景に、客観的指標を用いて妊娠後期の睡眠呼吸障害と睡眠時の姿勢との関係を明らかにする目的で、妊娠37週の妊婦をBMI30以上と30未満の2群に分け、非妊婦を対照に、睡眠呼吸障害の簡易型検出機器で、呼吸障害指数 (Respiratory disturbance index: RDI) と睡眠時の姿勢を記録し検討したものである。</p> <p>その結果、側臥位での睡眠時間は非妊婦と比べ妊婦で有意に増加していること、全RDIはBMI30以上の妊婦群、BMI30未満の妊婦群、非妊婦群の順で有意に高いことが明らかになった。また、BMI30以上の妊婦群は仰臥位に比べ側臥位で有意にRDIが低下すること、BMI30以上の妊婦群とBMI30未満の妊婦群との間に、仰臥位のRDIでは有意差を認めるが、側臥位では差を認めないことも明らかになった。</p> <p>これらの結果から、肥満を伴う妊娠後期の女性は、側臥位をとることで睡眠呼吸障害を緩和する傾向が示され、簡易型検出機器での呼吸障害指数の測定は、未診断の睡眠呼吸障害と、それに伴う妊娠関連合併症に対する簡便で効果的な対策となる可能性が示唆された。また、簡易型検出機器は自宅にて測定可能であり、多数の電極装着や入院を必要とする妊婦の負担が大きい終夜睡眠ポリグラフ検査による確定診断に先駆けて、ハイリスク妊婦群のスクリーニング検査としての有用性が期待される。これはスクリーニング検査確立による合併症予防という、公衆衛生上においても重要な課題に対する将来性ある研究と考える。</p> <p>学位審査においては、主査・副査からの質問に適切に回答しており、今回の研究の成果と限界、今後の発展性についても十分に理解していることが確認できた。</p> <p>以上のことから、主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			